

子どもが輝くまち

2

- 201 親が育ち子どもも育つまちづくり
- 202 人のつながりを活かした育てあうまちづくり
- 203 次世代のひのっ子を育てるまちづくり
- 204 発達に遅れや偏りのある子どもの支援
- 205 安全で安心な教育環境の整備
- 206 一人ひとりを大切にする教育支援
- 207 地域に根ざした特色ある学校づくり・時代とともに歩む教育
- 208 生きる力を育み、楽しく意欲的に学べる学習環境の創出

201 親が育ち子どもも育つまちづくり

子ども部

■現状と課題

- ・少子化の流れを止めるためにも、また仕事と育児が両立できる社会を実現していくためにも、多様な保育サービスを整えていく必要があります。
- ・働き方やライフスタイルの多様化にも対応していくことが求められています。
- ・地域の人間関係が希薄化している中、子育ての悩みを打ち明ける相談相手が身近に少なく、子育てに不安を抱える親が増加しています。身近な地域で子育てを励まし、支えあう人間関係を構築していくことが求められています。
- ・経済環境が厳しい中、親の日々の生活自体にゆとりがなくなってきており、それが子育てに悪い影響を与えるかねない状況になっています。経済的な基盤づくりや家庭内での連携、家庭（育児）と仕事のバランス（ワークライフバランス^{*52}）を図る等々の取組みが欠かせません。子育てにおける男女の関わり方や家庭のあり方を見直し、子育てに対する経済的支援を行う等の取組みが求められています。
- ・ひとり親家庭は増加傾向にあります。児童虐待や不登校・引きこもりの子どもへの支援は緊急性が高く、施策の一層の充実が求められています。
- ・子育てを地域、祖父母や親などから経験的に学ぶ機会が減っている現代では、意識的に子育てについて学ぶ機会を提供し、こうした機会を通して次の世代の親育てを行っていくことが必要となっています。

■めざすまちの姿

- 子育て家庭の親子が横につながり、互いに支え合い、豊かさと楽しさを感じながら子育てをしています。
- 多様な保育サービスや子育て支援サービスの提供により、安心して出産・子育てのできるまちになっています。

《まちづくり指標》

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値	中間目標 (平成27年度)	最終目標 (平成32年度)
子どもができても働き続けたい女性の割合	今後子どもができたら「変わらず働き続ける」「ペースを落として働き続ける」という女性の割合（すくすくプラン ^{*18} から）（%）	64.0%	80%	80%
親子でつきあえる地域の友人の有無	「気軽におしゃべりできる人がいる」人の割合（すくすくプラン ^{*18} から）（%）	60.0%	70%	80%

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関わる個人や機関・団体と連携し、子育て中の親子が横につながり、支えあい、ともに楽しさと豊かさを実感しながら子育てをしていくことのできるような場づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、自治会、地区青少年育成会^{*26}、青少年委員^{*20}、ひのっち^{*38}、学校支援地域本部^{*7}、子育てサークル、子育て支援グループ、市民ボランティアの活動など、地域で子育てを行う仕組みをつくる。 ・学校や大学、企業、NPO^{*6}法人の力で子育て施策を進めていく。

■施策の展開

①多様なニーズを受け止める子育て支援

- ・民間主導による保育園待機児の解消、学童クラブの「全員入所」「国都補助金の確保」「既存施設の利活用」による安定的・継続的な運営、ひのっち^{*38}事業の更なる充実、ファミリーサポート事業・ショートステイ事業の推進などに取組み、乳幼児の保育及び児童の育成に努めます。
- ・基幹型児童館^{*8}構想を推進するとともに、子ども家庭支援センターや子育てひろば、その他の子育て応援施設の更なる充実に取組みます。
- ・保育園の子育て支援機能を重視し、園庭や行事を地域に開放していく取組みを進めます。また安全・安心な保育環境の確保に努めます。

②子育てを励ます人と場づくり

- ・子育てサークル支援や子育て支援者養成講座の実施を通して、市民参加型の子育て支援の輪づくりを進めます。
- ・育児不安や孤立感を抱えている子育て家庭を対象に養育家庭訪問事業を実施し、育児・家事等の援助を通してその軽減・解消を図ります。
- ・自信を持って子育てができるよう、講座や子育てひろば等での関わりを通して、親の子育て力向上に取組んでいきます。

③周産期における福祉の支援体制づくり

- ・初めて妊娠された方に保育園が子育て経験の機会を提供することで、子育てに係る漠然とした不安を解消し、希望や期待が持てるようにします。
- ・妊婦の方、及び0歳から18歳までの子どもがいる家庭向けに、必要な子育て情報をまとめた冊子等を発行していきます。

④ゆとりをもって子育てするための環境づくり【連携】

- ・家庭（育児）と仕事のバランス（ワークライフバランス^{*52}）を図るために、市内事業所間の情報交換等の機会を設けます。また次世代育成支援対策推進法改正に伴う一般事業主次世代育成支援行動計画の策定義務化等について、関連部署と連携を図りながら啓発に努めます。
- ・子ども手当の支給や医療費の助成のほか、私立幼稚園の保護者の方に対する就園奨励金・保護者補助金・入園補助金の交付など、子育て家庭に対する経済的な支援を引き続き行います。

⑤ひとり親家庭への支援【連携】

- ・相談体制を充実させるほか、情報誌の配布やセミナーの開催を通した情報提供体制の整備に努めます。
- ・府内の関係各課や市内その他の関係機関との更なる連携を図り、ひとり親支援を市全体の取組みとして充実させていきます。

⑥児童虐待への対応、不登校等の子への支援【連携】

- ・継続的な啓発活動及び関係機関との連携強化に取組み、子ども家庭支援センターを中心とする相談体制の充実並びに職員の資質向上を通して、児童虐待の防止や不登校・引きこもりの子どもに対する支援を進めます。
- ・不登校や引きこもりの児童・生徒の居場所について、教育委員会や小・中学校と連携しながら、引き続きそのあり方を検討していきます。

⑦子どもの成長支援の充実【連携】

- ・(仮称)日野市発達支援センター(平成26年度開設予定)と連携し、発達に不安を抱えている子どもを支援するための体制づくりに努めます。
- ・保育園等に対する巡回支援や専門医、臨床心理士等による相談事業など、(仮称)日野市発達支援センターが実施する各種事業と連携し、発達障害^{*35}の早期発見・早期支援に努めます。また療育事業や地域支援事業、家族支援事業にも継続的に取組んでいきます。
- ・発達に不安を抱えたお子さんについては、できるだけ早い時期(できれば幼少期)から「個別支援シート」を作成し、福祉・保健・医療・教育各分野の関係機関が連携し、ライフステージに応じた、切れ目のない支援を適切に提供していくことができるような仕組みづくりに努めます。

■関連する個別計画

- ・ひのっ子すくすくプラン^{*18}(日野市次世代育成支援行動計画)後期計画(H22~H26)



■現状と課題

- かつては「みんなで協力して子育てする」姿が、いたるところで当たり前のように見られたものですが、都市化の進行とともに次第に目にすることが少なくなりました。「地域の子どもは地域で育てる」という意識をもう一度取り戻し、地域全体で子育てを支える体制を再構築していく必要があります。
- 「子どもたちが安全・安心に過ごせる場」の確保、ならびに「自然と触れ合うことのできる場」の提供も、今後の大切な課題です。

■めざすまちの姿

- 子どもたちは、地域ぐるみで子どもを育てる新たな動きの中で、安心して生き生きと成長しています。
- 自然に触れ合いながら遊び、学ぶことのできるまちになっています。

《まちづくり指標》

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値	中間目標 (平成27年度)	最終目標 (平成32年度)
青少年が心豊かに成長する環境が整えられていると考える市民の割合	市民意識調査「青少年が心豊かに成長する環境が整えられている」との回答割合（そう思う+どちらかといえばそう思う）（%）	22.2%	50%	70%

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
・「子育てしやすいまち日野」の実現に向け、地域の人材や貴重な自然、その他の社会資源を活かした子育て支援の仕組みづくりを進める。	・子ども会、自治会、地区青少年育成会 ^{*26} 、青少年委員 ^{*20} 、ひのっち ^{*38} 、学校支援地域本部 ^{*7} 、子育てサークル、子育て支援グループ、市民ボランティアの活動など、地域で子育てを行う仕組みをつくる。 ・学校や大学、企業、NPO ^{*6} 法人の力で子育て施策を進めていく。

●コラム●「手伝いますよ」

子育て中のお母さんに、「子どもを遊ばせる近所の広場の清掃とかやってもらえますか？ 道具は用意しますので」という問い合わせへのことばです。自分たちのことは自分たちで。小さな公民協働の姿でしょうか。

■施策の展開

①地域で子育てを支える仕組みづくり

- ・情報交換会や合同研修会等を通して、市内8中学校区ごとに組織されている青少年育成会その他、子育て支援に係るさまざまな団体や機関、学校、家庭の連携強化を図ります。
- ・青少年の指導・育成や保護・矯正に関する施策に必要な事項を調査するとともに、関係団体・機関相互の連絡調整を行い、青少年委員^{*20}や青少年問題協議会^{*21}などの活動の充実と活性化を図ります。

②出会いと豊かな体験を生み出す環境づくり

- ・子どもたちが身近な地域で心身ともに健やかに育っていくことができるよう、市内の全小学校で放課後子ども教室「ひのっち」^{*38}を開設、放課後の教室や校庭、体育館などに地域のボランティアを配置し、学校を拠点とした安全・安心な子どもの居場所づくりに努めます。
- ・児童館が、放課後や週末の子どもたちの活動拠点となるよう、地域や子どもたちのパワーを生かしながら、事業内容の更なる充実を図っていきます。
- ・子育てに関わるNPO^{*6}法人等と連携し、子どもが主役の居場所づくり、遊びを通した育ちの場づくりを進めていきます。また育児ストレスの解消を図るために、乳幼児と保護者が自然と触れ合うことのできる場づくりを進めます。

③安全で安心して子育てができるまちづくり

- ・あいさつをさり気なく交わす、そのような取組みが人と人の結びつきを強めることにつながります。子どもたちの安全・安心を地域で見守っていくことができるよう、引き続きあいさつ運動を推進していきます。今後は「校門から地域へ」、より広がりを持たせた取組みを行っていきます。
- ・「仲田の森」その他の市内に残る貴重な自然を活用し、子どもたちが、豊かな緑の中で心身ともに健やかに育っていくことができるようにしていきます。

■関連する個別計画

- ・ひのっ子すくすくプラン^{*18}（日野市次世代育成支援行動計画）後期計画（H22～H26）



■現状と課題

- ・コンピュータや携帯電話、ゲーム機の急速な普及の中で仮想世界が広がり、子どもたちは人や自然と直接ふれあう機会を失くしつつあります。家族同士のふれあいはもとより、地域で異世代交流を図る、中高生が乳幼児とふれあう等の機会を増やし、子どもたちが、人との関わりの中でお互いを大切にする心を育んでいけるような場を意識的につくっていく必要があります。
- ・地域の大人との関わりから、学ぶことが求められます。

■めざすまちの姿

- 次代を担う子どもたちが、家族や乳幼児、身近な地域の大人たちとのふれあいを通して豊かな心を育み、素敵な大人に成長しています。

《まちづくり指標》

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値	中間目標 (平成27年度)	最終目標 (平成32年度)
子どもたちが安心して遊び、学ぶ場があると考える市民の割合	市民意識調査「子どもたちが安心して遊び、学ぶ場がある」との回答割合（そう思う+どちらかといえばそう思う）（%）	30.9%	50%	70%
子どもたちの自己肯定感	「自分のことが好きである」中学生、高校生の率（ひのっ子すくすくプラン ^{*18} から）（%）	中学生 53.1% 高校生 33.0%	中学生 80% 高校生 70%	中学生 80% 高校生 70%

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関わる個人や機関・団体と連携し、子どもたちが、親や大人、乳幼児とのふれあう中で、心豊かに成長していくことができるような場づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、自治会、地区青少年育成会^{*26}、青少年委員^{*20}、ひのっちは^{*38}、学校支援地域本部^{*7}、子育てサークル、子育て支援グループ、市民ボランティアの活動など、地域で子育てを行う仕組みをつくる。 ・学校、大学、企業、NPO^{*6}法人の力で子育て施策を進めていく。

■施策の展開

①健やかな成長を支える遊び・学びの場づくり

- ・子どもたちに、異年齢・異世代間交流等の場を提供し、ともに支えあう喜びや生命の大切さを実感できるような取組みを進めます。
- ・市立保育園で園児たちに農作物を育てる場や機会を提供し、自ら食を育む力を身につけるとともに、自然の恵みに感謝する心を育てる活動に取組んでいきます。児童館においても、食育に関する同様の取組みを進めていきます。

②家族や地域の人とのふれあいの促進

- ・「家族」や「ふれあい」をテーマにした、さまざまな事業を展開していきます。
- ・市内の中学校や高等学校と連携し、中高生が、保育体験を通して乳幼児に対する理解を深め、人を思いやり、生命を大切にする心を育むことができるようになります。

③心と体の健やかな成長の支援【連携】

- ・(仮称) 発達支援センターその他の関係機関と連携し、保育園や学童クラブに対し、臨床心理士や言語聴覚士等の有資格アドバイザーによる巡回支援・個別相談・研修等を実施し、いわゆる「気になる子」の保育・育成に係る継続的な支援を行います。
- ・あわせて保育園・学童クラブ・学校が相互に連携し、気になる子どもたちが保育園から学童クラブや小学校に円滑に移行していくことができるよう仕組みづくりに努めます。

④子どもを大切にする施策の展開

- ・「ひのっ子すくすくプラン^{*18}（後期計画）」を推進する過程で「日野市子ども条例」の趣旨の具現化を図り、児童虐待やいじめなどで苦しむ子どもたちを救うとともに、子どもたちの健かな育ちを支援していきます。

■関連する個別計画

- ・ひのっ子すくすくプラン^{*18}（日野市次世代育成支援行動計画）後期計画（H22～H26）



204 発達に遅れや偏りのある子どもの支援

発達支援室 障害福祉課 健康課 特別支援教育推進チーム

■現状と課題

- ・近年、「ほかの子どもに比べて発達に遅れがある」、「うまく集団生活に溶け込めない」、「コミュニケーション能力に不安がある」など、発達に遅れや偏りのある子どもの数が増えています。いわゆる発達障害^{*35}の問題です。
- ・文部科学省の「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒に関する実態調査」においては、通常学級の6.3%の子どもが発達障害の疑いがあるという調査結果が出されており、実際にはこの数値以上であるとも言われています。
- ・国の取組みとして、平成17年4月に「発達障害者支援法」が施行され、「乳幼児期から成人期までの地域における一貫した支援の促進」、「専門家の確保と関係者の緊密な連携の確保」などが位置づけられています。
- ・日野市においては、平成20年11月に学識経験者、医師、市民、行政職員等により（仮称）日野市発達支援センター基本構想を策定し、平成26年の（仮称）日野市発達支援センター開設に向けて準備を進めています。
- ・発達障害については、①社会の中での認知が不十分、②特性に応じた支援を受けることにより改善が図れるにもかかわらず、支援体制が十分でない、③発達障害に関する専門家が少なく、地域における関係者の連携も不十分で支援体制が整っていない、④支援体制が不十分であるため、家族が大きな不安を抱えているなど、数多くの課題を抱えています。これらの問題を解決していくことが（仮称）日野市発達支援センターに求められます。

■めざすまちの姿

- 福祉、保健、医療及び教育の各機関が連携し、ライフステージに応じた切れ目のない適切な支援をしています。
- 支援者（保育士等）や保護者等の気づきや支援に重点をおき、早い時期から適切な対応ができます。

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・発達に遅れや偏りのある子どもがすこやかに成長できるよう、相談支援や療育支援等の支援体制の充実を図る。 ・ライフステージに応じた切れ目のない適切な支援のために関係機関の緊密な連携体制づくりに取組む。 ・ライフステージにおけるスムーズな移行支援のために、成長記録や支援内容等の記録を蓄積できる個別支援シートの開発に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、発達障害^{*35}に対する理解を深め、啓発活動等の取組みに関心を持ち、地域の中でも適切に関わり、子どもたちの育ちを支援するよう努める。 ・親同士が積極的に交流を行い、発達障害への受容を図るとともに、社会の一員としてその責任を分担し、自らも地域における理解促進の活動に参加、参画する。 ・各事業所、団体等は発達障害への理解を深め、積極的に雇用を行うなど、社会としての受け入れ体制づくりに向けた環境整備を行う。

■施策の展開

①相談事業の充実

- 専門職（臨床心理士、言語聴覚士等）による個別相談事業を実施します。必要に応じて、発達検査やアセスメント^{*3}を行い、関わり方等のアドバイスを行い、対象者とその家族が今後の見通しを立てられるようにします。
- 発達に関する専門医（小児科医、児童精神科医）が相談を行い、治療の必要性や発達障害^{*35}への知識等をアドバイスすることで、本人と保護者が今後の見通しを立てられるようにします。専門職による専門相談事業と連携するとともに、近隣の医療機関の外来受診への連携も行い、医療へのスムーズなつなぎも実施します。

②専門療法の実施

- 専門相談や医療相談において、必要と認められた場合に臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士による専門療法を実施します。

③人材育成・スキルアップ事業の実施【連携】

- 保育園、学童クラブ等に臨床心理士等の有資格者を派遣する巡回支援を行い、支援者（保育士等）に対する助言、指導や研修会を行い、発達に遅れや偏りのある子どもへの対応についての人材育成及びスキルアップを図っていきます。事業の実施に当たっては、関係課と緊密に連携を図っていきます。

④子どもの健康診査との連携実施【連携】

- 子どもの健やかな発育と発達を支援するため、乳幼児健診については、健康課との共催事業として連携を行い、発達に遅れや偏りがある子どもや保護者に対する早期発見、早期支援のためのスムーズな体制づくりを進めます。

⑤子どもと保護者等の支援【連携】

- 保護者、学校、関係機関などの連携や協力関係を構築し、幼児期から就労期までを一貫した支援体制として成長記録や支援内容を記載する「(仮称) 個別支援シート」の作成・活用を推進します。推進に当たっては、教育機関のほかに福祉、保健、医療の各分野と緊密な連携を行っていきます。
- 福祉、保健、医療及び教育の各機関が連携し合い、ライフステージに応じた切れ目のない適切な支援を行うための仕組みを作っていきます。

⑥家族支援の推進

- 一時預かりを行い、本人だけではなく同居する家族の都合（冠婚葬祭、学校行事等）やレスパイトケア^{*50}のための施策を組み立て、実施します。
- 同じ悩みを持つ保護者に対するグループ創設や紹介等の支援を実施します。家族同士が交流できる機会の創出により、孤立防止や精神的負担の軽減を図ります。

⑦啓発事業の実施

- 広く市民に対し、発達障害^{*35}に対する理解、啓発を図るための講演会を開催します。

■関連する個別計画

- ・(仮称) 日野市発達支援センター基本構想 (H20)
- ・障害者保健福祉ひの3か年プラン (障害者計画) (H21~H23)
- ・日野市次世代育成支援行動計画 (ひのっ子すくすくプラン^{*18)} (H22~H26)

●コラム●「ボクたち ワタシたちの気持ち・・・」

Q. 日野市のことどう思いますか？

「とてもスキ」16.1% 「スキ」32.4%

Q. 日野市の好きなところは？

「山や川がある」29.4% 「静かにのんびり暮らせる」27.7%

Q. 日野市がどんなまちになったらいいですか？

「安全で子どもやお年寄りが住みよいまち」21.8%

「山や田んぼがあって川がきれいなまち」20.9%

Q. 自分たちが何をしたら住み良いまちになると思いますか？

「自然を大切にする」32.6% 「近所の人にあいさつする、思いやる」23.6%

「近所のそうじをする（ゴミをださない）」17.7%

これらは市内の小学校5年生と中学校2年生の皆さんにアンケートした内容の一部です。

都心にはない「日野市の良さ」を子どもたちなりに感じ、そのために自分たちがやるべきことを考えていてくれています。

未来の日野市がどんなまちになったらいいのか？

『ヒント』をひとつもらえたような気がします。

10年後、子どもたちが大人になったとき「日野市ダイスキ♪」と言ってもらえるような素敵なまちになっているといいですね。

205 安全で安心な教育環境の整備

庶務課

■現状と課題

- 市立小中学校の8割以上は、昭和30-50年代に建設されたもので、今後老朽化対策が求められています。長期的には子どもの人数は減少することが見込まれていますが、現状では、国道20号バイパスの開通や多摩平団地の建て替えなどにより、一部の学校では児童が増加し、それに伴った校舎の環境整備が求められています。子どもたちが安全かつ安心して学べる環境を確保するため、長期的な視点に立った小中学校の整備計画の検討が重要な課題となっています。
- 都市基盤整備に伴う児童、生徒数の増加により普通教室の整備を始め各室の増床ほか、教育環境の変化に対応する適正規模に応じた環境整備が必要となります。
- 築50年を経過した日野第二中学校北側校舎については、豊田駅北口周辺のまちづくりに伴う生徒数増加を踏まえた改築が求められていますが、まちづくり事業の進捗状況によっては、安全性確保のために早期の耐震化が急務となっています。
- 耐震化整備後、老朽化施設の大規模改修に向け、計画的な整備が必要です。
- 日野市では、市民の意識の高さと、先進的な各種取組みが効を奏してか、幸いにして子どもたちを巻き込んだ重大な犯罪、トラブル等は発生していません。しかし、平成19年度から取組んでいる不審者情報メールサービスでは、年間30件程度の情報が寄せられるなど、いつどのような事件が起こっても不思議でない状況にあるともいえます。今後も、より多くの保護者や地域の目を子どもたちに向け、地域全体の防犯意識を更に高める取組みや、ボランティア加入者の増加等の施策拡大によって、子どもたちを安全に育む環境の強化が求められます。
- 各小中学校、幼稚園に防犯カメラを設置しています。また小中学校に安全管理員を配置し、不審者の侵入を防止しています。
- スクールガードボランティアが子どもの見守り等を実施しています。
- 不審者情報等をメール配信し、保護者等への注意喚起を実施しています。

■めざすまちの姿

- 学校施設の計画的な整備・改修が進み、児童・生徒の安全・安心な教育環境となっています。また、開かれた学校づくりの観点から、災害時の近隣住民の避難場所として地域全体の安全・安心な環境が確保されています。
- 地域全体の安全・防犯意識が高まり、多様化する犯罪等への防犯体制が充実し、子どもが安心して過ごせるまちとなっています。

《まちづくり指標》

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値	中間目標 (平成27年度)	最終目標 (平成32年度)
日野第二中学校における教育環境の整備	校舎の安全性の確保と教育環境の整備	全体計画の検討、方針決定	整備工事着工	整備工事完了 (平成28年度)

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・校舎等の長期的な整備計画を策定し、効果的な補修等を実施する。これにより、児童・生徒が安心して学習できる環境を維持する。 ・市民、事業者、関係機関、行政が一体となった防犯体制の強化に努めるとともに、多様化する犯罪に対し、事件等を未然に防止することができる安全で安心な教育環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民自らが防犯対策に取組む重要性を理解し、安全な環境づくりに協力する。 ・わが地域の子どもたちを育むという意識で学校やPTAの活動に関心を持ち協力する。 ・学校及び地域の防犯体制に対して、企業、NPO⁶、市民活動団体は、学校を中核とした地域の取組みを支援し、子どもの安全で安心な環境づくりに取組む。

■施策の展開

①施設や設備の計画的な改修(第二中学校北校舎の改築)

- ・市内の小・中学校の中で耐震化が完了していない最後の1棟である第二中学校北校舎について、子どもたちの学び環境の安全を確保するため、早急に整備計画を策定し事業化を図ります。
- ・市立小中学校の建物は、約8割以上が昭和30年代から昭和50年代にかけて建設されています。古い建物では、築後45年経過し老朽化が進んでいるため、中長期的な改築事業計画を作成し、財政フレームと整合した計画的な整備を実施します。
- ・改築年度まで20年以上ある学校では、教育環境が適切でない状態が続くため、大規模改造事業計画を作成し、計画的な整備を実施します。
- ・現在進めているトイレ改修計画は、各小中学校一系統を改修する計画で進めており、改修されたトイレは、児童・生徒・保護者・教職員等に好評です。残る老朽化したトイレについてもトイレ改修事業計画（第二期）を作成し、計画的な整備を実施します。

②大規模校の環境整備

- ・区画整理事業、バイパスの開通、多摩平団地の建替え、大規模マンションの建設等により、児童・生徒の数が増える学校に対し、校舎の環境整備を図ります。

③危機管理体制の強化

- ・各学校で定めている危機管理マニュアル及び安全マップの活用や、スクールガードボランティア講習会の開催により、教職員、保護者のみならず、子どもたち自らが安全意識を高め、行動することができるよう指導するなど、危機管理体制の強化に努めます。

④防犯体制の充実

- ・犯罪等による被害を未然に防止するために、子ども、保護者、地域の防犯意識の普及・高揚や事業者、関係機関、行政の連携による総合的な防犯体制の強化を図るとともに、事件発生時の対策が迅速かつ的確に行えるよう、警察機関等との連携強化などに努めます（学校区ごとのスクールガードボランティアの充実、不審者情報メール配信サービスの利用促進）。

■関連する個別計画

- ・学校施設整備計画（H13～H25）

206 一人ひとりを大切にする教育支援

学校課 教育センター 特別支援教育推進チーム

■現状と課題

- ・自分に自信が持てない子ども、人との関わりが苦手な子どもが増えています。また発達障害^{*35}等による就学相談件数は増加傾向にあり、日野市でも平成21年度には194件の相談が寄せられています。
- ・特別な支援を必要とする子ども一人ひとりに応じて配慮された環境や指導は、すべての子どもたちに意義ある環境・指導であるという「ユニバーサルデザイン」の視点にたった取組みが必要となっています。通常の学級でも、この視点を活かした指導や教材等の内容を具体的に示した、通常学級での特別支援教育^{*32}のスタンダード（ひのスタンダード）が重要となってきています。
- ・また、日野市の不登校児童・生徒数は微増傾向にあり、平成21年度には不登校児童・生徒数が182人に達しています。また、その増加割合は東京都や国の平均値を若干上回っています。各学校で取組みを行ってきましたが、なかなか改善に結びつかないのが現状です。

■めざすまちの姿

- 学校、保護者、地域が連携して、子どもの自信を育み、いろいろな人と心を通わせ、ともに生きることの大切さを実感させるとともに、感動する心や努力する心も育んでいます。
- 個に応じた教育支援が充実し、幼児期から小・中学校に至るまで、ライフステージに応じた一貫した支援体制・相談体制が確立されています。
- 不登校児童・生徒ゼロをめざし、学校に登校できるための支援体制や、学校にまでは行けなくても、子どもたちの居場所となる空間が整備されています。

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者が安心して教育を受けられるような教育環境の整備に取組む。 ・悩みを抱える家庭が孤立することのないよう発達障害^{*35}等や不登校に対する啓発を行い、地域力を高めるよう市民、事業者、関係機関が一体となった教育支援体制の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者やPTAは、発達障害^{*35}等や不登校に対する理解を深め、学校の取組みに関心を持ち、地域の中でも適切に関わり、子どもたちの育ちを支援するよう努める。 ・一人ひとりを大切にする教育を充実するために、大学、NPO^{*6}、市民活動団体等は、学校の取組みを支援し、話し合い等をしながら地域ぐるみの環境づくりに取組む。

■施策の展開

①特別支援教育^{*32}の充実

- ・障害のある児童、生徒の適切な教育環境を整えるために、それぞれの障害特性に応じた特別支援学級を設置しており、今後もニーズに応じた対応に努めます。
- ・小学校の通常学級を支援するために、発達障害^{*35}等により学習につまずきのある児童の個別学習の支援策として行っているリソースルームについて、小学校全校で実施します。中学校の実施に当たっては、事業の実施方法等を検討します。
- ・通常学級における指導方法や学級環境などについて、特別支援教育^{*32}の視点を活かした内容と基準を具体的に示した「ひのスタンダード」の取組みを推進するため、学校現場の体制を整えながら、障害のある児童・生徒の教育支援に努めます。

②子どもと保護者等の支援【連携】

- ・特別支援教育^{*32}や障害の理解がまだ十分に周知されていないため、講演会の開催や特別支援教育・障害関係の情報提供を行うよう努めます。
- ・保護者、学校、関係機関などの連携や協力関係を構築するため、幼児期から学校卒業までの一貫した支援体制や支援内容等を記載する「個別の教育支援計画」の作成・活用を推進します。また、推進に当たっては、「(仮称) 日野市発達支援センター」(平成26年度開設予定) のほか、福祉、保健、医療等の各分野と連携を行っていきます。

③相談支援の充実

- ・学校生活、学習、友だち関係、発達にかかわること、親子の関係など、多様な子どもの相談に 対して、わかりやすい相談窓口・体制を整えます。
- ・特別支援学校や特別支援学級への就学、入級、転学等のニーズが年々増加しているため、引き 続き就学相談員や臨床心理士を配置し、就学相談体制の充実を図ります。
- ・学校における教育相談機能を充実させるため、小・中学校にスクールカウンセラーを配置し、 不登校や問題行動等の対応に当たります。
- ・教育相談室、スクールカウンセラー、関係部局、関係機関などのスムーズな連携を進めていく ための体制を整備します。また「(仮称) 日野市発達支援センター」(平成26年度開設予定) と 連携します。

④登校支援プロジェクトによる不登校の児童・生徒への支援【連携】

- ・不登校に関する課題を多面的に把握し、課題解決に向けた方策を検討し、確かなシステムとし て動かせるようにします。
- ・現在ある「わかば教室」^{*54}の整備に加え、新しい居場所作りについても検討していきます。
- ・小学校と中学校の連携を密にし、不登校の未然防止や不登校児童・生徒の対応などについて連 携を図っていきます。更に、学習支援のためのe-ラーニング^{*5}などの構築を図ります。

■関連する個別計画

- ・日野市特別支援教育^{*32}推進計画（H23～）（策定予定）

207 地域に根ざした特色ある学校づくり・時代とともに歩む教育

学校課

■現状と課題

- ・近年は学校の力だけで教育を行うのではなく、地域全体で学校教育を支え、地域ぐるみで学校運営を行う動きが見られるようになっています。
- ・日野市においても、コミュニティスクール^{*14}や魅力ある三中づくりプロジェクトなど地域と連携した取組みが進み、特色ある学校づくりが展開されています。
- ・今後は、教育委員会と市長部局が連携し、教育環境の整備や学力と体力の向上などの課題に対応していく必要があります。

■めざすまちの姿

- 保護者・地域との協働のもと、地域の特性や地域の方々の子どもたちへの思いを反映した教育活動が展開され、特色ある学校づくりが進んでいます。
- 子どもを取り巻く環境の変化に、学校、保護者、地域が連携し、総合的に施策が展開され、質の高い教育環境が整っています。

《まちづくり指標》

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値	中間目標 (平成27年度)	最終目標 (平成32年度)
「学校に満足している」と答えた保護者が、増加した学校の割合	保護者へのアンケート結果（%）	—	80%	100%

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校現場における課題を把握し、学校、保護者、地域等のネットワークづくりを支援するとともに、地域資源を活用した取組みの提案を行う。 ・子ども関連の各施策の体系化を図り、関係部署が連携して新たな課題に対応した施策を展開する。 ・地域資源の発掘を行い、学校、地域等のネットワークづくりに努める。また、子ども関連の各施策の体系化を図り、関係部署が連携して新たな課題に対応した施策を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携による特色ある学校づくりの必要性を理解し、学校運営に協力する。 ・学校の抱える課題等に関心を持ち、地域と一緒に取組む事業に協力する。 ・学校現場の課題等に対して、学校の取組みを積極的に支援する。 ・各主体の有する資源を活用し、学校教育現場の抱える課題等に対し、積極的に協力する。 ・学校の抱える課題等に関心を持ち、地域と一緒に取組む事業に協力する。 ・各主体の有する資源を活用し、学校教育現場の抱える課題等に対し、積極的に協力する。

■施策の展開

①地域と一緒に進める学校運営

- ・学校の運営について、地域住民が今までよりもより強く関与する学校運営協議会制度（コミュニティスクール^{*14}）を小学校2校で開始し、地域からの要望があれば更に拡大します。また、地域と一緒にした学校運営について具体的に実施します。

②魅力ある学校づくりプロジェクト^{*45}の実施

- ・学校の活性化のために、教員や保護者、地域住民や近隣の大学などが中心となってプロジェクトを実施し、学力や体力向上を含めた小規模校の魅力づくりや、大規模校の生徒数抑制を順次進めています。

③選べる学校制度の円滑な運用

- ・平成13年度に始まった「選べる学校制度」は、保護者や児童が学校を選択することができるため、各学校は選択されるための特色ある学校づくりを推進しました。しかしながら一部の地域での子ども人口の増加により学校の施設状況を上回る希望者が出てきたため、良好な教育環境の維持のために平成22年度入学より定員制を導入し、今後も「選べる学校制度」を継続して、円滑な運用をしていきます。

④学校評価の充実

- ・学校の自主性、自立性が高まるうえで、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざします。また、その評価を公開することで、学校が説明責任を果たし、家庭や地域との連携・協力を進め、見える学校づくりを推進していきます。

⑤特色ある公立幼稚園の推進

- ・地域との連携による特色ある幼稚園づくりを展開します。また、国の「こども園」構想を見据えながら、日野市で独自に進めている幼稚園をさらに充実させていきます。

■関連する個別計画

- ・日野市学校教育基本構想（H21～H25）



208 生きる力を育み、楽しく意欲的に学べる学習環境の創出

学校課 ICT活用教育推進室

■現状と課題

- ・急激な社会経済情勢の変化に伴い、価値観の多様化やライフスタイルが大きく変化する中、次代を担う子どもたち一人ひとりに心豊かでたくましく、主体的・創造的にこれからの中を生き抜いていくための力を培うことが求められています。
- ・しかし実際には、表現力、聞く力が低下しつつあり、それによるさまざまな問題が生じ始めています。例えば学力の面では、さまざまな調査において自分の考えや根拠を明確にして書くことに課題が見られます。今後は自分の考えを自分の言葉で発信したり、相手の意図や気持ちを汲み取りながら、互いの考え方を交流して、ものの見方や考え方を広げたりすることがより一層必要だと考えられます。
- ・また、情報化社会にあって犯罪に巻き込まれるケースが増加傾向にあり、市内でもメール等によるトラブルが起きており、情報セキュリティ教育の重要性が高まっていると言えます。
- ・日野市においては、小中学校で、魅力ある授業・分かる授業に向けて、ICT^{*2}活用教育を推進するための環境整備を行っています。今後、学力の向上を一層図るためにには、ICTをより効果的に活用し、子どもたちの学習意欲を高めることや、子どもたちの学び合いを豊かにする学習活動の工夫が課題です。

■めざすまちの姿

- 子どもたちが将来の夢をしっかりと持ち、学んだり身に付けたりした力を、自分の進む道で友だちとともに發揮できています。
- 時代の流れに沿った教育を受け、情報化社会に対応した能力などを身につけています。

『まちづくり指標』

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値	中間目標 (平成27年度)	最終目標 (平成32年度)
学校が楽しいと感じている児童・生徒の割合	児童・生徒へのアンケート結果（%）	88%	90%	100%

■めざすまちの姿を実現するための役割分担

市の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT^{*2}活用教育の更なる推進、教員等の適正配置など、学習環境の整備に努める。また、企業や団体等との連携を図り、地域資源を活用し、一人ひとりが生きる力を育み、楽しく意欲的に学べるような学習環境の創出に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う子どもたちが、総合的な生きる力を育む重要性を理解し、学校の取組みに関心を持ち協力する。 ・次代の人材を育むために、企業、NPO^{*6}、各種団体等は学校現場の取組みに関心を持ち、各種事業に対して積極的に協力する。

■施策の展開

①確かな学力の向上

- ・基礎的、基本的な学力の定着と、思考力・判断力・表現力等の活用する力の育成のため、ICT^{*2}を活用した効果的な授業の推進、少人数指導の充実、学力向上支援員・学校指導補助員等の人的配置、理科教育・外国語活動の充実、子どもたちの学力の分析などを行います。
- ・学校ごとに作成した改善プランに基づき、人的配置を含めた適切かつ細やかな学習環境の維持・支援に努めます。

②豊かな心の醸成

- ・規範意識を醸成し、しなやかで強い心、人とかかわる力を育むため、保護者や地域人材を活用した道徳教育の充実、自然体験学習、郷土学習、芸術・文化に触れる体験などの充実に努めます。
- ・社会性やコミュニケーション能力を養うため、職場体験、農業体験、縦割り班活動を中心としたさまざまな体験活動を進めます。

③健やかな体づくり

- ・児童、生徒の健やかな体作りと体力向上のため、「はやね、はやおき、朝ごはん」の励行、中休み、昼休みの外遊びの励行、なわとび、持久走等の体力づくり、体力テストの結果を活かした体育の授業改善、外部指導員配置等による部活動の振興に努めます。

④幼保小中の連携教育

- ・幼保小中が一貫した教育を進めるため、幼保小連携教育推進委員会による教員の相互交流、〇歳児から小学校入門期までのカリキュラムの活用、外国語活動・理科教育・古典学習をはじめとする小中の教科教育の連携を行い、学習や生活への滑らかな接続を図ります。

⑤ICT^{*2}活用教育の推進

- ・ICT^{*2}機器をより効果的に活用し、子どもたちの確かな学力の定着を図り、21世紀を担う子どもたちを育成します。
- ・教員がICT活用指導力を高め、より魅力ある授業の実現のために、学校ICT支援員を更に活用していきます。
- ・校務支援システムを活用して情報化を図り、教員の校務を更に効率的に推進していきます。
- ・学校Webサイトの更なる充実を図り、広く「見える学校づくり」を進めます。

⑥情報セキュリティの向上

- ・情報などにかかるさまざまな事故を未然に防ぐために、教員一人ひとりの、セキュリティに対する意識の向上を図る研修会を開催するとともに、情報セキュリティに対する学校の組織体制を確立し、情報セキュリティの向上を推進していきます。

⑦食育の充実【連携】

- ・安全でおいしく楽しい給食の充実のため、地場産野菜等の利用率の向上と充実を推進します。
- ・児童、生徒と地元生産者の交流の場を通した食農教育の指導体制の確立を図ります。
- ・食事のマナーや成長に必要な栄養に関する情報の発信や伝統食・行事食などを盛り込んだ学校給食や食育リーフレット作成など、幼稚園・小学校・中学校における食教育の充実を図ります。
- ・幼稚園、小学校、中学校における食教育の充実のため、「日野市食育推進計画」に基づき、日野産野菜の学校給食への供給を進めています。
- ・「日野市みんなですすめる食育条例」における教育委員会の責務・学校の責務について充実を図ります。

■関連する個別計画

- ・日野市食育推進計画（H19～H23）
- ・第2期日野市食育推進計画（H24年度～H28）（予定）

